

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—161619

⑬ Int. Cl.³
F 24 C 15/02

識別記号

庁内整理番号
A 7116—3L

⑭ 公開 昭和59年(1984)9月12日

発明の数 1
審査請求 有

(全 2 頁)

⑮ オープントースター

門真市大字門真1006番地松下電
器産業株式会社内

⑯ 特 願 昭59—23149

⑰ 出 願 人 松下電器産業株式会社

⑱ 出 願 昭55(1980)4月11日

門真市大字門真1006番地

(前実用新案出願日援用)

⑲ 代 理 人 弁理士 中尾敏男 外1名

⑳ 発 明 者 飯森信行

明 細 書

1、発明の名称

オープントースター

2、特許請求の範囲

複数のセラミックヒーターと反射板及び焼き網を庫内に設け、かつ上開きの前面ドアと天板を有し、前記前面ドアは開いた時に前記天板と本体との間に位置することを特徴とするオープントースター。

3、発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は一般家庭で使用されるオープントースターに関するものである。

従来例の構成とその問題点

従来のオープントースターには様々な形があるが、大きく分けて前面ドアが下方に開くものと上方に開くものがある。これらは、いずれも使用中本体が熱くなり、調理物を取り出す時に最も触れ易い箇所である。前面ドアにおいてやけどをするケースがあった。

発明の目的

本発明は上記従来の問題点に鑑み、オープントースターの使用中に最もやけどをしやすい箇所といわれている前面ドアに手などが触れにくくして、やけど防止を図ることを目的とするものである。

発明の構成

上記目的を達成するために本発明は、複数のセラミックヒーターと反射板及び焼き網を庫内に設け、かつ上開きの前面ドアと天板を有し、前記前面ドアは開いた時に前記天板と本体との間に位置するようにしたもので、この構成によれば、前面ドアを開いた時、この前面ドアが天板と本体との間に位置するため、前面ドアに触れてやけどをするということとはなくなる。

実施例の説明

以下、本発明の一実施例を添付図面にもとづいて説明する。図において、1は薄い金属板でできているオープントースタ本体(以下、本体という)、2、2'はセラミックヒーターであり、反射板3によって庫外への放熱を防いでいる。4は塗装さ

れた金属板または樹脂からなる天板であり、本体1の両側面に保持されている。5, 5'は前面ドアのガイドであり、透明ガラス6を固定して前面ドアを構成し、軸7を中心として回転する鈍角に曲がっている支持棒8の一端9に固定されている。一方、この支持棒8の他端10には長孔11をほどこし、焼き網13と完全に接合されている。軸12と嵌合している。また前記前面ドアの下方には樹脂でない取手14を設けてあり、更に支持棒8及び本体1にそれぞれ突起15及び16を設けて引っぱりネ17によって付勢されている。さて前面ドアを開けるときのドア、焼き網13の動きを説明する。まず取手14を持ち上方に引き上げると、スプリング17が軸7を通る直線B-B'に達した直後から自動的に前面ドアは上方に動き、ちょうど天板4と本体1との間19に入り込む形となり、そして前面ドアに取付けてある取手14と天板4に設けてあるストッパー18とがぶつかり合った所で止まるようになっている。このとき焼き網13は支持棒8に設けてある長孔11

によって前方へすべり出し距離Aだけ進むしくみになっている。従って前面ドアを開いて調理物を庫内へ出し入れする時には前面ドアは天板4の下に入っているのでやけどをする心配はない。

発明の効果

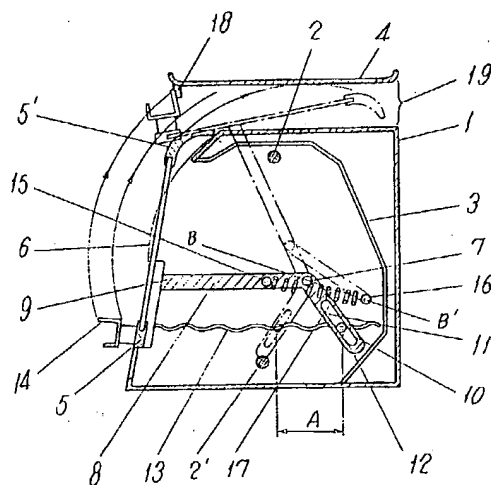
以上の説明から明らかなように本発明のオープントースターによれば、最もやけどをしやすい箇所であった前面ドアに触れてやけどをするということは全くなくなり、かつコスト的にも安価にして所期の目的を達成することができるものである。

4、図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例を示すオープントースターの側断面図である。

1……本体、2, 2'……ヒーター、3……反射板、4……天板、7……回転軸、8……支持棒、……焼き網、17……スプリング。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名



PAT-NO: JP359161619A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 59161619 A

TITLE: OVEN TOASTER

PUBN-DATE: September 12, 1984

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

IIMORI, NOBUYUKI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

N/A

APPL-NO: JP59023149

APPL-DATE: February 9, 1984

INT-CL (IPC): F24C015/02

US-CL-CURRENT: 126/190

ABSTRACT:

PURPOSE: To prevent burn by a method wherein a hand is protected from a front door surface which is called as a point where the burn is most likely to occur during a use of oven toaster under an arrangement in which the front door surface is positioned between a ceiling plate and a main body when the front door is opened.

CONSTITUTION: When a knob 14 is pulled up, a front door is moved upwardly automatically just after a spring 17 is reached to a line B-B' passing through a shaft 7, enters into a space 19 between the ceiling plate 4 and the main body 1 and it is stopped at a point where the knob 14 attached to the front door and a stopper 18 arranged at the ceiling plate 4 are strick against each other. At this time, the cooking net 13 is moved forwardly by a sliding distance A through a longitudinal hole 11 made in a supporting rod 8. Therefore, when the front door is opened to put in or take out the cooked food, the front door is placed below the ceiling plate 4, so that no fear of burn is found.

COPYRIGHT: (C)1984,JPO&Japio